

ということはしますけど、そういうことによって次に進もうという気はわいてきている。いわゆるそれがお父さんの役割としてちゃんとしていただけているのかなと思ってます。(27歳・男性・知的障害、発達障害・ID 15)

兄と離れて、それぞれがそれぞれのことをする時間を持つっていうのは、本人にとっても良かった点かな、いい影響があったかなというふうに思いますね。(58歳・女性・精神障害・ID 16)

### ③ 近隣住民

そうですね。会社のキーパーソンの人もあるし、今ではやっぱりあれですね、ケアホームの周りの近所の人だったりとか、結構近所もケアホームとの仲っていうか、関係性はいいんで、そういったところで少し見守りしてもらったりとか、そういうのはできるようなところですね。(23歳・男性・知的障害、精神障害・ID 5)

## (5) 相談支援におけるフォーマルサービスの活用における変化

相談支援におけるフォーマルサービスの活用における変化について、利用者の変化では役割が増える、自信が増す、安心感を持つ、穏やかに過ごせるが、利用者以外の変化では家族の安定がそれぞれ指摘された。

### 1) 利用者の変化

#### ① 役割が増える

フォーマルサービスを使うことによって、自分の生活、家庭内での役割が増えていく。ヘルパーを使うことによって、より自分の役、自分ができることが増えていくんで、結果として家庭内での役割が増える。サポートしてもらってるんだけど、結果としては役割が増えるみたいな効果は出てるかなと。で、それは、また相談支援もサービスもそうなんだけれども、彼ができることはみんな認めてくれるわけですね。で、認められることによって、自分のできることが増えて、より意欲的に役割をこなしていくと、ことはあると思います。(34歳・男性・精神障害・ID 2)

#### ② 自信が増す

今回は自分のペースで（就労継続支援 B 型に）行けて、それを継続できていることと、そのスタッフの人との関係がうまく行き、利用者同士でも話せる人ができたということは、大きな自信になっていると思います。(31歳・男性・精神障害・ID 3)

#### ③ 安心感を持つ

この方の場合は、ものすごく安心感を持てるようになったみたいでしたね。自分の居場所っていうか、物理的にもほんとに居場所があるわけですね。決まった時間と決まった曜日には。(48歳・男性・精神障害・ID 10)

#### ④ 穏やかに過ごせる

やっぱりヘルパーのサービスが入って、もうおんなじ一定の支援がおんなじ時間ってパターンのようにこの方には提供されて、その言葉の雨あられが投げかけられない穏やかな時間というのが準備ができたので、それも本人が穏やかに過ごせる一つの要因だったかなというふうに思います。(21歳・男性・知的障害、発達障害・ID 8)

### 2) 利用者以外の変化

#### ① 家族の安定

移動支援の他にショートステイも使って、それこそ単独型ショートSを使ったんですけど、本人が初めはすごく嫌がったんだけど、やっぱりそこにいるスタッフが若いので、そこのお兄さんたちと一緒に遊んだりっていうのが楽しいから、たまに泊まりに行くのはオッケーになって、で、その間お母さんも少しリフレッシュすることができるように、本人と離れる時間が定期的に取りれるようになったので、そこで少しリフレッシュして、また気持ちが落ち着くってことができたかな。(8歳・男性・知的障害・ID 7)

本人についていうより、やっぱりこれぐらいの年齢だと、どちらかというと、ほんとにファミリーサポートというか、家族支援で、やっぱり本人が移動支援でやってる間、お兄ちゃんのことをお父さんが見れる、お兄ちゃんのことをお母さんが関わるとか、やっぱりそういうことで、やっぱりそこがまたうまく行くから、みんな家族も本人に対しての何だろ、対応に少し我慢、我慢は必要だと思うんだけど、我慢ができたりとか、柔らかな言葉がけがすることができたりとか、やっぱり本人に直接っていうよりはそういう間接的な影響のほうが大きいんじゃないかなというふうに思います。(8歳・男性・知的障害、発達障害・ID 7)

### (6) 相談支援におけるインフォーマルサービスの活用における変化

相談支援におけるインフォーマルサービスの活用における変化について、状態の安定、生活のメリハリ、生活の広がり、気持ちのはけ口、気分転換、生活の張りが指摘された。

#### 1) 状態の安定

弟さんも関わっていく上で、ときどきひげそったりとか、関係性は前ほど悪くはないですけど、良くはないんですけど、来るといろいろやったりという、やっぱり複数の方が関わるといことはおっきいかなと思ってます。やっぱりお母さんだけで関わるんじゃなくて、やっぱり作業所の方も関わるし、弟さんも来てくれるし、ときどき、前はお父さんは関わってくれてたり、で、自分がときどき訪問したりっていう、やっぱり複数の関わり、ちょっとやっぱ線が増えたりすることによって丸くなっていくかなという気はしていますし、それがたぶん一番主に関わってるお母さんの支えにもなっているかなというふうに思ってます。(27歳・男性・知的障害・ID 13)

やっぱり本人そういう嫌がらせ行為みたいなのが頻発してたので、やっぱり周りからも、他の利用者さんからも「やめてよ」とか、「嫌だ」とかっていう声かけばかりだったのが、

最近はそういうこともないので、お茶こうやって渡したりとか、役割としてするので、何かそのあたりではたぶん「ありがとう」とか、そういう言葉がけも出てきて、少し関わりとして改善されて、それは本人がちゃんと受け止められてるかどうかというのとは分からないんですけど、前みたいなのそういう攻撃的な言葉がけが減ってるっていうのは、もしかしたら変化をもたらしてるかもしれないけど、それはもう推測なので、定かじゃないです。  
(20歳・男性・知的障害、発達障害・ID 9)

## 2) 生活のメリハリ

そういうこともあった中で、しかし、外の刺激も得ていきたいという希望もだんだん出てきたので、出ていく中では社会経験もそれほどないので、とにかくまず買い物をするとかです。スーパーに行くとか、それからショッピングセンターに行くとかっていうことが日課に、日課というか、週間計画の中に入ってきたということは生活にメリハリを作ることになったんじゃないかなと思います。(39歳・女性・精神障害・ID 1)

## 3) 生活の広がり

散歩に行くとか、散歩に行ってお店に行く。それから、ショッピングセンターに行くということが、生活の幅を広げてると思います。(34歳・男性・精神障害・ID 2)

## 4) 気持ちのはけ口

あとはご家族の存在もこの方、おっきいですかね。何ていうのかな、お母さん、家族の中にも発達障害の人が結構いて。というか、私からすると、みんなそうだと思うんですけども、で、結構しっちゃかめっちゃかかっていうか、なときもあるし、ご本人自身も幼少期からの流れの中で葛藤、両親それぞれに葛藤を感じてる部分もありますけれども、やっぱり何か行き詰まったときとか、気持ちのはけ口を持ちたいと思うときには結構お母さんにお話を聞いてもらうっていうこともすごく多いようで、お母さんの一言でご本人の気持ちが固まるとか、そういうときも多いので、この方にとってはおっきいかなと思いますね。  
(43歳・女性・発達障害・ID 11)

## 5) 気分転換

この方の場合は、やっぱりご友人と休日に会うとか、連絡を取ってお話をするっていうこととか、すごく有効にお休みを使っているんで、そこで気分転換できたり(52歳・男性・精神障害・ID 12)

## 6) 生活の張り

変化かどうか分かんないんですが、本人と同じような障害を持った方のお母さん同士と一緒にボーリング行って、いわゆるお母さん2人と利用者2人でボーリング行ってっていうのは本人も楽しみにして「今度いつ行く」とか、「何とかちゃんと会いたいね」とかって話はしょっちゅうしているのと、お母さん週に何回も公共機関のプールがあるんですけど、地活があるとこと同じ場所にあるんですけども、そのプールに週何回も行って、いわゆるおじいちゃんおばあちゃんが歩いているのと一緒のところでも本人も歩いているんです。

で、本人とってもおしゃべりで明るい方なので、とっても人気者で、もう顔なじみで「ああ、何とかちゃん、何とかちゃん」って言いつつ、本人も「イエー」っていう感じで楽しくされていて、いわゆる日中活動的な役目を果たしてくれていると思います。そのプールが。(32歳・女性・視覚障害、肢体不自由、知的障害・ID 14)

## 7. 質的調査まとめ

相談支援の利用により利用者が生じた変化については、状態の安定、気持ちの変化、環境の変化がそれぞれ指摘された。

相談支援の利用により生じる変化の要因としては、利用者によるものと支援者によるものが指摘され、利用者によるものは話す、自ら気づく、納得する、目標設定、安心感が、支援者によるものは聞く、環境調整、状態把握がそれぞれ指摘された。

相談支援において意図的な変化を生み出す際に意識していることとしては、傾聴、エンパワメント、対話、環境調整、家族支援が指摘された。

相談支援以外により生じる変化の要因としては、フォーマルサポートでは居宅介護、通所施設、医療が、インフォーマルサポートでは仲間、家族、近隣住民がそれぞれ指摘された。

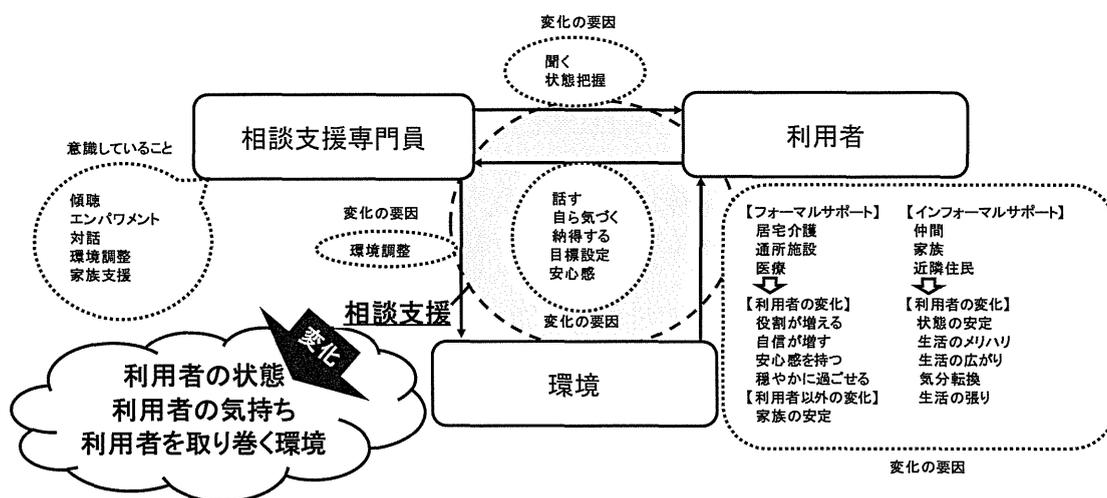
相談支援におけるフォーマルサービスの活用における変化については、利用者の変化では役割が増える、自信が増す、安心感を持つ、穏やかに過ごせるが、利用者以外の変化では家族の安定がそれぞれ指摘された。

相談支援におけるインフォーマルサービスの活用における変化については、状態の安定、生活のメリハリ、生活の広がり、気持ちのはげき、気分転換、生活の張りが指摘された。

それらの関係を以下に図示したが、相談支援事業における利用者の変化の要因には相談支援専門員と利用者以外にそれらを取り巻く環境の存在が大きいと考えられた。

そして、これらの3つの要素の相互作用により利用者の状態、気持ち、取り巻く環境に変化が生じる様子がうかがわれた。

図196 相談支援専門員・利用者・環境の相互作用



(筑波大学助教・森地徹)

#### IV. 考察

利用者の満足度について、直接的な支援と間接的な支援の必要性が示された。このことは相談支援専門員及び利用者の双方から指摘された。これは問題に直面した際にそのことをしっかりと受け止め、あわせて適切なサービスコーディネートを行うことが障害者ケアマネジメントにおいて必要とされているためと考えられる。

そしてその際に、連携や調整の必要性も指摘されており、それらの点を踏まえたケアマネジメントの展開が不可欠になると考えられる。このことは自由記述においても指摘されており、そこでは連携、サービスコーディネート、家族との調整、健康への配慮、状況に応じた対応の重要性が指摘され、気持ちに寄り添う、連携、サービスコーディネート、家族との関係調整、健康面への対応、状況に応じた対応が行われていることが指摘されている。そしてそのことにより、利用者の状態の安定、気持ちの変化、環境の変化が生じることが指摘されている。その際には、相談支援専門員が傾聴、エンパワメント、対話、環境調整、家族支援を意識して関わっていることが指摘されている。

支援が利用者の評価に影響していると想定される項目としては特に心理・精神面や周囲との関係面が指摘されたが、これらのことも前述の通り利用者をしっかりと受け止め、適切なサービスコーディネートを行う成果だと考えられる。

(筑波大学助教・森地徹)

#### V. おわりに

本研究では、前述の通り障害者の QOL を高めるという観点から障害者ケアマネジメントの手法を開発し、あわせてケアマネジメント従事者のケアマネジメント実践の評価基準を提示することを目的として調査を実施した。

その結果、ケアマネジメントの手法開発については、利用者の話を聞いたり見守りをしたりするような直接的な支援とサービスを調整するような間接的な支援が必要とされる傾向が相談支援専門員の視点から示された。これは利用者の視点においても同様であった。

そしてその具体的な取り組みとして連携、サービスコーディネート、家族との調整、健康への配慮、状況に応じた対応が相談支援専門員より指摘された。また、相談支援において意図的に利用者の変化を生み出すために傾聴、エンパワメント、対話、環境調整、家族支援が意識されていることも相談支援専門員より指摘された。

一方、ケアマネジメント従事者のケアマネジメント実践の評価基準については、連携や調整の重要性が相談支援専門員の視点から指摘される傾向にあった。そして利用者の心理・精神面や周囲との関係面においてその効果が期待される傾向にあることが同じく相談支援専門員の視点から示された。また、ケアマネジメントの実施により利用者の状態の安定、気持ちの変化、環境の変化が見られる傾向も相談支援専門員より指摘された。

これらのことから、ケアマネジメントの手法開発においては直接的な相談支援と間接的なサービス調整が必要となることが示唆された。そして、特にサービス調整において連携が必要となることが示された。また、ケアマネジメント従事者のケアマネジメント実践の評価基準においても、サービス調整が評価の視点として示される必要性が示唆された。そして、その際に利用者にも最も影響を及ぼす心理・精神面や周囲との関係面の支援に目を向ける重要性も示唆された。それらのことを意識することによって、ケアマネジメントによって利用者の状態の安定、気持ちの変化、利用者を取り巻く環境の変化が図られる傾向にあることがうかがわれた。

(筑波大学助教・森地徹)

# 資料

## ケアマネジメントに関するアンケート（相談支援専門員）

この度はお忙しい中、平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金・障害者対策総合研究事業（身体・知的等障害分野）（研究代表者：桜美林大学大学院教授・白澤政和 研究分担者：筑波大学大学院教授・小澤温）における適切なケアマネジメントの推進に関する調査研究事業アンケートに引き続きご協力いただきまして誠にありがとうございます。本調査では、障害者の QOL を高めるという観点から、障害者ケアマネジメントの手法を開発し、あわせてケアマネジメント従事者（相談支援専門員）のケアマネジメント実践における評価基準を提示することを目的とし、前年度の調査にご協力いただいた方に調査票をお送りしています。アンケート用紙は質問状と回答用紙を兼ねておりますので、ご回答内容は用紙に直接ご記入ください。可能な限り全ての質問事項にご回答をお願いいたしたく、ご理解・ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

## ■ アンケートの回答方法

- アンケート回答用紙には「相談支援専門員用」と「ご利用者用」がございます。
- 「相談支援専門員用」は相談支援専門員ご自身がご回答ください。
- 「ご利用者用」は、利用者用の返送用封筒と一緒に利用者ご本人へ直接お渡しください。ご本人によるご回答が難しい場合には、代理の方（ご家族など）によるご記入をお願いいたします。
- 本アンケート調査を途中でやめた場合でも何の不利益も生じません。
- 担当の利用者に関して記入いただいたアンケート用紙は、まとめて同封の返信用封筒に封入の上ご返送ください。

## ■ 対象利用者の選定について

本アンケートにご回答いただく利用者は、昨年度のアンケート調査にご協力いただいたご利用者に当てはめてご回答いただくようお願いいたします。

## ■ アンケートに関するお願い

ご回答者には集計のための識別 ID を付与いたしますことをご了承くださいますようお願い申し上げます。

■ アンケートのご回答期限： **平成 25 年 10 月 6 日（日）** までにご投函ください。

## ■ 本アンケートにより頂戴する情報に関するお取り扱いについて

本アンケートにより頂戴いたしました一切の情報は、国立大学法人筑波大学が厳重に管理を行い、本調査事業の統計データとしてのみ使用し個人の特定はいたしません。また、利用目的を超えた使用はいたしません。

## ■ アンケート調査票の返送先

データ入力株式会社（東京都江戸川区西葛西 5-7-1 2F）

## ■ アンケート調査に関する実務的なお問い合わせ

（研究協力者）森地徹（茨城キリスト教大学） E-mail: t.morichi@r2.dion.ne.jp

## ■ アンケート調査に関する倫理的なお問い合わせ

筑波大学社会人大学院等支援室・研究支援担当 E-mail: hitorinri@un.tsukuba.ac.jp

以上、お忙しい中大変恐縮でございますが、ご協力の程何卒宜しくお願い申し上げます。

ID
----

## アンケート（相談支援専門員）

I. あなた（相談支援専門員）についてお尋ねします。

1) あなたの性別を教えてください。

1. 男	2. 女
------	------

2) あなたの年齢を教えてください。

1. 30歳未満	2. 30歳～39歳	3. 40歳～49歳
4. 50歳～59歳	5. 60歳～69歳	6. 70歳以上

3) あなたの相談支援専門員としての実務経験年数を教えてください（障害者ケアマネジメント従事者としての期間も含む）。

1. 2年未満	2. 2年以上～4年未満	3. 4年以上～6年未満
4. 6年以上～8年未満	5. 8年以上～10年未満	6. 10年以上

4) 初任者研修と現任研修を受講した年月日を教えてください。

(初任者研修)	年	月	日	(現任研修)	年	月	日
---------	---	---	---	--------	---	---	---

5) あなたが相談支援専門員以外に保有する資格を教えてください。（複数選択可）

1. 社会福祉士	2. 精神保健福祉士	3. 介護福祉士	4. 介護支援専門員
5. 社会福祉主事	6. ホームヘルパー	7. 看護師/准看護師	8. 理学療法士
9. 作業療法士	10. その他( )		

6) あなたの雇用・勤務形態を教えてください。

1. 常勤・専任	2. 常勤・兼務	3. 非常勤・専任	4. 非常勤・兼務
----------	----------	-----------	-----------

(※ここでの「兼務」は、他の事業所との兼務を想定し、管理者との兼務を意味しません。)

7) あなたの職場での職位を教えてください。

1. 管理者	2. 管理者以外
--------	----------

8) あなたの平成25年8月のひと月の担当件数(対応件数)を教えてください。

( )件/月
--------

9) あなたの相談支援専門員としての1年間の収入(賞与・税込額)を教えてください。

1. 150万円未満	2. 150～209万円	3. 210～269万円	4. 270～329万円
5. 330～389万円	6. 390～449万円	7. 450～509万円	8. 510万円以上

10) 所属事業所の種類を教えてください(あてはまるものすべてに○をつけてください)。

1. 指定特定相談支援事業所	2. 指定一般相談支援事業所	3. 指定障害児相談支援事業所
----------------	----------------	-----------------

11) 所属事業所の法人種別を教えてください。

1. 社会福祉法人	2. 社会福祉協議会	3. 医療法人
4. 財団法人	5. 一般社団法人	6. 公益社団法人
7. 営利法人	8. NPO 法人	9. 自治体/行政機関
10. その他 ( )		

12) 所属事業所に勤務する相談支援専門員の人数を教えてください。

1. 常勤 ( )名	2. 非常勤 ( )名
------------	-------------

13) 所属事業所がある地域の規模を教えてください。

1. 都市部 (人口30万人以上)	2. 地方都市 (人口5万人以上)
3. 市町村 (人口5万人未満)	4. その他/不明

II. 調査対象となる利用者についてお尋ねします。

1) 対象利用者の年齢を教えてください。

( )歳
------

2) 対象利用者の性別を教えてください。

男	女
---	---

3) 対象利用者が初めて相談支援事業を利用を開始した時期を教えてください。

西暦 ( )年 ( )月
--------------

4) 対象利用者の現在の家族状況を教えてください。

1. 独居	2. 同居家族あり
-------	-----------

5) 対象利用者の現在の障害者手帳の種別・等級を教えてください。

( )
-----

6) 対象利用者の現在の障害程度区分を教えてください。

1. 非該当	2. 区分1	3. 区分2	4. 区分3
5. 区分4	6. 区分5	7. 区分6	8. 不明

7) 対象利用者の現在の障害について教えてください(あてはまるものすべてに○をつけてください)。

1. 視覚障害	2. 聴覚又は平衡機能の障害	3. 音声機能、言語機能又はそしゃく機能の障害	
4. 肢体不自由	5. 内部障害	6. 知的障害	7. 精神障害
8. 発達障害	9. 重症心身障害	10. その他 ( )	

8) 相談支援事業利用開始時から現在で、対象利用者の障害程度区分は変わりましたか。

1. 変わっていない	2. 変わった → 利用開始時の区分: ( )
------------	-------------------------

9) 相談支援に至る経路について教えてください。

1. 訪問	2. 来所	3. 電話など※	4. その他
-------	-------	----------	--------

※FAX・電子メールを含む。

Ⅲ. 現在の利用者の状態をお尋ねします。

1) 現在の利用者の状態を、相談支援専門員として見たときに利用者ご本人がどう考えていると思われるか、あてはまるものをA～Dの中からひとつずつ選んで○を付けてください。

＜評価基準の考え方＞

A から順に、最も良い段階から4段階で評価を行います。

- A 特に問題はなく、自立している状態
- B 問題はあるが、家族や専門家の援助によって解消されている状態
- C 問題に対処はしているが、日常生活において困難が生じている状態
- D 全く問題が解決されていない状態

		A	B	C	D
(1) ADL	① 身辺処理に関して	1 ひとりでできる	2 見守り・指示があればできる	3 少し手伝ってもらえばできる	4 全部やっってもらっている
	② 食事に関して	1 ひとりでできる	2 見守り・指示があればできる	3 少し手伝ってもらえばできる	4 全部やっってもらっている
	③ 入浴に関して	1 ひとりでできる	2 見守り・指示があればできる	3 少し手伝ってもらえばできる	4 全部やっってもらっている
	④ 排泄に関して	1 ひとりでできる	2 見守り・指示があればできる	3 少し手伝ってもらえばできる	4 全部やっってもらっている
	⑤ 家事に関して	1 ひとりでできる	2 見守り・指示があればできる	3 少し手伝ってもらえばできる	4 全部やっってもらっている
(2) 心理・精神面	⑥ 生きがい・希望・好きなこと	1 多くある	2 少ないがある	3 ほとんどない	4 ない
	⑦ 精神面の安定	1 非常に安定している	2 少し安定している	3 あまり安定していない	4 安定していない
(3) 周囲との関係面	⑧ 日中活動での人間関係	1 多い	2 少ない	3 ほとんどない	4 ない
	⑨ 支援する人の存在	1 多くいる	2 少ないがいる	3 ほとんどいない	4 いない
	⑩ 家族関係	1 強い関係がある	2 弱い関係がある	3 ほとんど関係がない	4 ない
(4) 健康管理	⑪ 健康管理	1 ひとりでできる	2 見守り・指示があればできる	3 少し手伝ってもらえばできる	4 全部やっってもらっている
(5) 経済生活 経済環境	⑫ 金銭管理	1 ひとりでできる	2 見守り・指示があればできる	3 少し手伝ってもらえばできる	4 全部やっってもらっている
(6) 移動	⑬ 移動・交通機関の利用	1 ひとりでできる	2 見守り・指示があればできる	3 少し手伝ってもらえばできる	4 全部やっってもらっている
	⑭ 住宅内の移動	1 ひとりでできる	2 見守り・指示があればできる	3 少し手伝ってもらえばできる	4 全部やっってもらっている
(7) 全体の生活から見た 自立度	⑮ 自立した生活	1 ひとりでできる	2 見守り・指示があればできる	3 少し手伝ってもらえばできる	4 できない

3) (1)～(6)の領域で、利用者ご本人が大切にしていると思われる項目を、それぞれ優先度の高い順番に1～6位までの数字をご記入ください。(重複不可)

(1) ADL	( )位
(2) 心理・精神面	( )位
(3) 周囲との関係面	( )位
(4) 健康管理	( )位
(5) 金銭管理	( )位
(6) 移動・交通・ 住宅環境	( )位

4) あなた自身が評価した利用者の在宅生活の状況は、利用者の評価と一致していると思いますか。

1. 全く思わない | 2. あまり思わない | 3. どちらともいえない | 4. まあそう思う | 5. そう思う

5) あなた自身の相談支援が、利用者の評価の変化に影響していると考えますか。

1. 全く思わない | 2. あまり思わない | 3. どちらともいえない | 4. まあそう思う | 5. そう思う

6) 5)で「そう思う」「まあそう思う」と回答した場合、どの領域に影響を与えたと思いますか。(複数回答可)

1. ADL	2. 心理・精神面	3. 周囲との関係面	4. 健康管理
5. 金銭管理	6. 移動・交通・住宅環境		

7) 5)で「そう思う」「まあそう思う」と回答した場合、具体的にどのような支援内容が利用者の変化に関連したと考えますか。それぞれ最もあてはまると思われる数字(1～5)ひとつに○を付けてください。

	1. 全く 思わない	2. あまり 思わない	3. どちら とも いえない	4. まあそ う思う	5. そう 思う
(1) 本人の生命・生活の維持からニーズの 緊急性・優先度を考える	1.	2.	3.	4.	5.
(2) 本人・家族・介護者から情報収集する	1.	2.	3.	4.	5.
(3) 困っていることを傾聴し引き出す	1.	2.	3.	4.	5.
(4) 希望を傾聴し引き出す	1.	2.	3.	4.	5.
(5) 本人の意向を確認する	1.	2.	3.	4.	5.
(6) 信頼関係を築く	1.	2.	3.	4.	5.
(7) 緊急性の高いニーズに対し早期に集中 して提供準備を行う	1.	2.	3.	4.	5.
(8) サービスの提供にあたり事業者と詳細 な調整を行う	1.	2.	3.	4.	5.
(9) チームメンバーがチームで援助すること を認識する	1.	2.	3.	4.	5.
(10) 利用者ニーズの現状や変化を把握する	1.	2.	3.	4.	5.
(11) 利用開始後の利用者の状況・不安や 苦情を確認し対応する	1.	2.	3.	4.	5.
(12) サービス提供の結果をチームメンバー から把握する	1.	2.	3.	4.	5.
(13) その他( )	1.	2.	3.	4.	5.

8) 5)で「そう思う」「まあそう思う」と回答した場合、7)で回答した支援内容で特に大切だと思われる具体的な取り組み(エピソード)がありましたら以下にその内容を記述してください。

- 9) 相談支援以外の要因が利用者の変化に関連する場合、どのような要因が考えられるか以下にその内容を記述してください。

--

- 9) 地域で暮らす利用者の力について、あてはまる数字(1~4)に○を付けてください。

- |                        |
|------------------------|
| 1. 地域で暮らす力がある          |
| 2. どちらかといえば、地域で暮らす力がある |
| 3. どちらかといえば、地域で暮らす力はない |
| 4. 地域で暮らす力はない          |

- 10) 対象利用者が施設入所に関して考えているかどうかを、あてはまる数字(1~3)に○を付けてください。

- |                    |
|--------------------|
| 1. 施設入所を考えていない     |
| 2. 施設入所を考えはじめている   |
| 3. 実施に施設入所を申し込んでいる |

11) 現在利用しているサービスの有無に○を付けてください。

	記入例	○・無
介護給付	1. 居宅介護(ホームヘルプ)	有・無
	2. 重度訪問介護	有・無
	3. 行動援護	有・無
	4. 同行援護	有・無
	5. 重度障害者等包括支援	有・無
	6. 短期入所サービス	有・無
	7. 療養介護	有・無
	8. 生活介護	有・無
	9. 施設入所支援	有・無
	10. 共同生活介護(ケアホーム)	有・無
訓練等給付	11. 自立訓練(機能訓練・生活訓練)	有・無
	12. 就労移行支援	有・無
	13. 就労継続支援(A型)	有・無
	14. 就労継続支援(B型)	有・無
	15. 共同生活援助(グループホーム)	有・無
地域生活支援事業	16. コミュニケーション支援事業	有・無
	17. 日常生活用具給付等事業	有・無
	18. 移動支援事業	有・無
	19. 地域活動支援センター	有・無
	20. 福祉ホーム	有・無
障害児施設・事業	21. 児童発達支援	有・無
	22. 医療型児童発達支援	有・無
	23. 放課後等デイサービス	有・無
	24. 保育所等訪問支援	有・無
	25. 福祉型障害児入所施設	有・無
	26. 医療型障害児入所施設	有・無
補装具費	27. 補装具費	有・無
自立支援医療	28. 自立支援医療	有・無
上記以外のサービス	29. 住宅改修費の助成	有・無
	30. 成年後見制度	有・無
	31. 日常生活自立支援事業	有・無
	32. ピアサポートやセルフヘルプ	有・無
	33. 近隣等インフォーマルサービス	有・無
	34. その他( )	有・無

アンケートは以上で終了です。同封の返信用封筒に入れて無記名でご返送ください。  
ご協力ありがとうございました。

平成25年度厚生労働科学研究費補助金・障害者対策総合研究事業

## ケアマネジメントに関するアンケート（ご利用者用）

この度はお忙しい中、平成25年度厚生労働科学研究費補助金・障害者対策

総合研究事業（身体・知的等障害分野）（研究代表者：桜美林大学大学院

教授・白澤政和 研究分担者：筑波大学大学院教授・小澤温）における適切

なケアマネジメントの推進に関する調査研究事業アンケートに引き続きご

協力いただき誠にありがとうございます。本調査では、前年度の調査にご

協力いただいた方に調査票をお送りしています。アンケート用紙は質問状

と回答用紙を兼ねておりますので、ご回答内容は用紙に直接ご記入ください。

アンケートは全部で4ページあります。可能な限り全ての質問事項にご回答を

お願いいたしたく、ご理解・ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

### ■ アンケートの回答方法

➤ 利用者ご本人がご記入ください。

ご本人によるご記入が難しい場合には、代理の方（ご家族の方など）

によるご記入をお願いいたします。

➤ このアンケートを途中でやめても何の不利益も生じません。

➤ ご記入いただいたアンケート用紙は返信用封筒に入れ、直接ご返送  
ください。

### ■ アンケートのご回答期限

平成25年10月6日（日）までにご投函ください。

■ **本アンケートにより頂戴する情報に関するお取り扱いについて**

本アンケートは障害福祉サービス全体の評価を行うもので、担当相談支援

専門員の評価を行うものではありません。ご回答いただいた内容が関係者に

公表されることは一切ありませんので、ご安心ください。

本アンケートにより頂戴いたしました一切の情報は、国立大学法人筑波大学が

厳重に管理を行い、本調査事業の統計データとしてのみ使用し個人の特定はいたしま

せん。また、利用目的を超えた使用はいたしません。

■ **アンケート調査票の返送先**

データ入力株式会社（東京都江戸川区西葛西5-7-1 2F）

■ **アンケート調査に関する実務的なお問い合わせ**

（研究協力者）森地 徹（茨城キリスト教大学） E-mail:t.morichi@r2.dion.ne.jp

■ **アンケート調査に関する倫理的なお問い合わせ**

筑波大学社会人大学院等支援室・研究支援担当 E-mail:hitorinri@un.tsukuba.ac.jp

以上、お忙しい中大変恐縮でございますが、ご協力の程何卒宜しくお願

い申し上げます。



II. 現在の状況をお聞きします。利用者ご本人がどう考えているか、あてはまるものをA～Dの中からひとつずつ選んで○をつけてください。

＜どこに○をつけるかの基準＞

以下のような考え方で、○をつけてください。

- A 特に問題はなく、自分でできている
- B 問題はあるが、家族や専門家の手助けによってできている
- C 家族や専門家の手助けもあるが、できていないことがある
- D 問題があり、そして、手助けもないため、できていない

		1)現在の状況			
		A	B	C	D
(1) 身の回りのこと	①身の回りのことについて	1 ひとり でできる	2 見守り・指示が あればできる	3 少し手伝って もらえばできる	4 全部やって もらっている
	②食事に ついて	1 ひとり でできる	2 見守り・指示が あればできる	3 少し手伝って もらえばできる	4 全部やって もらっている
	③入浴に ついて	1 ひとり でできる	2 見守り・指示が あればできる	3 少し手伝って もらえばできる	4 全部やって もらっている
	④排泄に ついて	1 ひとり でできる	2 見守り・指示が あればできる	3 少し手伝って もらえばできる	4 全部やって もらっている
	⑤家事に ついて	1 ひとり でできる	2 見守り・指示が あればできる	3 少し手伝って もらえばできる	4 全部やって もらっている
(2) ここに 関すること	⑥生きがい・ 希望・好きなこと	1 多くある	2 少ないが ある	3 ほとんどない	4 ない
	⑦気持ち	1 非常に 落ちている	2 少し落ち着いて いる	3 あまり 落ち着いていない	4 落ち着いていない
(3) まわりの人と の関係	⑧日中活動での 人とのつながり	1 多い	2 少ない	3 ほとんどない	4 ない
	⑨支援してくれる 人の存在	1 多くいる	2 少ないが いる	3 ほとんど いない	4 まったく いない
	⑩家族との関係	1 関係 が強い	2 関係が弱い	3 関係がほとんど ない	4 関係がない

げんざい じょうきょう  
1)現在の状況

		げんざい じょうきょう 1)現在の状況			
		A	B	C	D
(4) けんこう 健康に かん 関すること	⑪けんこう かんり 健康の管理	1 ひとり でできる	2 みまもり しじが 見守り・指示が あればできる	3 すこ てっだ 少し手伝って もらえばできる	4 ぜんぶ 全部やって もらっている
(5) かね お金に かん 関すること	⑫かね かんり お金の管理	1 ひとり でできる	2 みまもり しじが 見守り・指示が あればできる	3 すこ てっだ 少し手伝って もらえばできる	4 ぜんぶ 全部やって もらっている
(6) いどう 移動に かん 関すること	⑬こうつうきかん 交通機関の りよう 利用	1 ひとり でできる	2 みまもり しじが 見守り・指示が あればできる	3 すこ てっだ 少し手伝って もらえばできる	4 ぜんぶ 全部やって もらっている
	⑭じゅうたくない 住宅内での いどう 移動	1 ひとり でできる	2 みまもり しじが 見守り・指示が あればできる	3 すこ てっだ 少し手伝って もらえばできる	4 ぜんぶ 全部やって もらっている
(7) じりつ せいかつ 自立した生活	⑮じりつ せいかつ 自立した生活	1 ひとり でできる	2 みまもり しじが 見守り・指示が あればできる	3 すこ てっだ 少し手伝って もらえばできる	4 できない